

PROSPECTIVE EMPLOYEES MAGAZINE

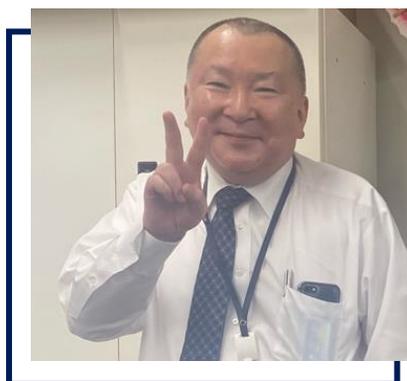
Vol. 7
内 定 者 マ ガ ジ ン

3号連続で「最終選考官インタビュー」をお届けします。OSTechには複数の最終選考権限を持った社員がいます。しかし、「内定が出るか・出ないかの場」となると緊張してしまい、その社員がどのような人柄で、どのような背景を持った人物なのか興味があっても気軽に質問がしにくいのではないのでしょうか？最終回となる今回は2本立てです。名古屋システム課の八木さん、技術管理部の香月さんにそれぞれ話を聞きました！

【社員紹介①】

八木 栄一郎 さん

ソリューションサービス事業本部
名古屋システム課 課長



これまでの経歴は？

学生時代は自由気ままに生きていました（笑）
武道部に入っていたのですが、先輩へ「おす！
ごつつぁんです！」と挨拶するような、上下関係の厳しい部活でした。その部活は就職先はほぼみんな警察になると言われており、別の道に進むために辞めてしまったんですけど、そのあとは学生生活エンジョイしました（笑）元々本が好きで、いつか本屋を開くのが夢だったんですね。今はやらなくてよかったと思ってはいますけど！なので、お金が稼げてある程度時間の取れるイメージの公務員を目指していたこともありまして。ですが、ゼミが金融系だったのでカード会社を受けることに。電話をしたら「明日来い！」と言われ…（笑）僕は進路が決まるのは遅かったですが、早い遅いは関係ないです。「入ってからが勝負！」っていうのを伝えたいですね。特に自分の専攻分野を気にする必要はないです。ですが、これから勉強します！ではなく、こういう勉強をしていきます！という

気持ちをもって、今まで自分のやってきたことにも自信をもってほしいです！段取り8割と言われるように、準備は大事ですよ。新卒で入社したカード会社では6年働きました。そこから独立系SIerへ転職して初めて、ITの仕事に就きました。その会社は物販を行っており、異国にきたかと思うほど、IT用語の壁にぶち当たったんです。用語を知らないとお客さんと話もできない状況の中で、先輩に聞きながら、自分でも本を読み、頑張って覚えました。16年ほど働きましたね。その次は名古屋に拠点がある人材企業に営業として関わりました。ワンマン社長の元、非常に濃い6年間を過ごしました。そして2013年に名古屋拠点を立ち上げないかと誘いを受けて入社した会社が、2014年にアウトソーシングテクノロジーと合併し、今ここにいうという経歴です。（最初のカード会社では、利用者へ支払い催促も経験したんだとか。八木さんにも下積み時代があったんですね。）

最終選考官ならではの、ここだけの話

合否基準のひとつは「想いが伝えられるか」です。文理やスキルの有無に関わらず、「僕はこの会社に入って、頑張っていきたいんだ」って想いが伝わる子。スラスラ話すのもいいかもしれないけど、僕みたいに何言ってるかわからへんやん！みたいな子でも（※そんなことはないですよ）想いが伝わるといいですね。その想いがなければ、入社しても頑張るのは大変なのではないでしょうか。学生さんが入社したら、絶対に採用した立場として採用の責任があると

思っていて、その責任とは想いのあるエンジニアにちゃんと道しるべを示すことだと思います。ちなみに、学生に志望動機を聞いた時「色々な会社、色々な採用担当がいた中で、OSTechの採用担当さんだけが4回も5回も親身になって話を聞いてくれたんです。僕は彼に恩返ししたいから、この会社に入りたいんです」と言ってくれた学生がいました。僕は昭和の人間なので、そういう学生を不採用にできず、内定を出したことがあります。（笑）

趣味は野球とプロレス！

僕ってB型なので、これだ！と思ったものに集中しやすいんですね。例えば野球。中日ファンで、球場に優勝決定戦を見に行ったこともありますし、プロの解説者に負けなと思いますし、俺に監督やらせてみろ！と思うこともありますね。また、中日新聞に記事を投稿して一面に載ったこともありました。野球に関しては「この采配がうよね」と言えるくらい玄人です。それと同じくらい好きなのが、プロレス

です。三沢光晴、小林健太の試合は感動しちゃいますね。YouTubeでも検索すると出てくるので、見たことがある学生さん、見てみた学生さんはぜひ語りましょう！ほかに、一つのことにはハマると極めるので、どんな話を振っても話せるね、って前職の社長に言われていました。拠点長同士でもプロレスの話をしているんですよ（笑）（※好きなものを熱く語る八木さんは、まるで少年のようにキラキラしていました！）

OSTechのいいところは？

これは最終選考で学生さんにも話すんですけど、イグアナってご存じですか？イグアナは元々陸の生き物だったところ、餌がなくなる危機に瀕した際に、水中の餌を探しに行ったんです。生き残りやそこからの進化を遂げるためには、変化を恐れちゃいけないんですね。この会社のいいところは、変化のためのチャレンジをする土壌のある会社ということです。そしてもう一つは2000人規模の採用をしている、それだけの規模の大きさ、投資に対する積極性。これができる会社はなかなかないです。様々な業界のグループ会社があるIT会社はそうそうない。だからこそ新しいサービスを生み出せると思うんで

す。なのでみなさんにこの環境を利用してもらいたいです。



▲仲良しの木下さん（中央）、高木さん（右）と名古屋支店で撮影。発言からもわかる通り、八木さんは気さくな方です♪

内定者へ3つのアドバイス

①振り返りを行って欲しい

失敗した場合には原因がありますよね。自分自身になぜできなかったか、なぜなぞをしてみてください。PDCAを回して、改善し、どんどん成功体験を増やしてほしいです。それが自信に繋がります。

②仮説を立てて先を読む

言われたことだけをやるのであれば、ロボット

でもいいですね。これをやることによってこうなる、そんな風に仮説を立ててお客様に提案することを常日頃思っている技術者になってほしいですね。

③想い

やはりこれですね。働きながら、常にこうしていきたい！という想いを持って働いていて欲しいです。

【社員紹介②】

香月 裕文 さん

技術管理部（教育・研修部門）

元エンジニアの最終選考官です。



これまでの経歴は？

新卒ではサッシなどの建築資材を扱うメーカーに就職。3年ほど働いていたんですが、ぶっちゃけ仕事内容がつまらなくて(笑) やってられるか！という気持ちでやめて今の業界に来ました。就活時がバブル真っ只中で楽しかったし、どこにいても仕事はあるだろう！と思って退職しましたが、正直転職はうまくいかなかったんです。大学は経営工学科で情報や生産技術を学んでいたのですが、そのおかげで有利になるということはあまりなかったかも。転職活動しているときはつらかったな。誰にも相手にされない感じがして……でも、いざNikonの半導体のプロジェクトに入ると決まった時は、結構エンジニアとしての素養を見てもらえました。高校時代から数学が得意だったんですよね。以降も

大変なことはありました。機械設計の仕事が初めてだったので、全部自分で勉強して、仕事終わり家に帰らないで（※帰ってしまうとお子さんと遊んでしまうから、だそうです）カフェやベンチで勉強。当時の半導体製造装置は花形の仕事、いた部署も力学的な知識がないとやっていけなかったんですよ。だから開発業務だけれど図面だけではなく実験や評価などの領域も一から学びました。そのおかげで技術者としてのベースが出来上がったのかもしれないですね。その後異動を重ねて、リーダーを任される機会が増え、人材の教育に目を向けました。その会社で教育に携わって16年目くらいで退職を決意した時に、元々知り合いだったOSTechの社員に声をかけられ、この会社にきました。

普段の私生活は？

趣味はこれといったものがあるわけではないし、休みの日は家のことをしています。日々の細々した家事があまり得意じゃないから、休みの日にいざ始めると大掃除になることが多いです。家族構成は姉が一人、今は奥さんと25歳

の娘ひとりと暮らしています。若いころは北海道に暮らしていたんですけど、車で函館まで7時間かけていって見たこともありました。学生時代はとにかく好きなことをやって遊びまわっていました（笑）。

自分が採用した学生について

何事にも前向きに挑戦して、いろんなことに感謝して…とにかく一生懸命な子は伸びるし、リーダー業務も任せられるようになってると思います。コミュニケーション能力が極端に高くなくても、真面目な子は早かれ遅かれ芽は出ている。実際に新卒の配属と教育をやっていた時に、職場見学でなかなか配属先が決まらなかった子がいて、最終的に本人がやりたいと思っていた仕事とは少し異なる仕事をしていたかもしれないけれど、文句も言わず遅刻もせず2年間頑張っていたんですね。そうしたら配属先から

声をかけられて、遂に当初の希望である設計業務に携われるようになっていました。その時は親心か、涙が出そうになりました（笑）。

「色々経験する」というのは好きなことだけを沢山やるということとは限りません。むしろ、やりたいと思っていなかったことの方を積極的に取り組むほうがいいかも。僕も「あれがやりたいこれがやりたい！」って言いやすくなったのは、自分の経験の幅を広げて信頼されて、リーダーなどを任せられるようになってからでしたしね。

内定者へメッセージ

僕は過去に「自分って社会に必要とされてないんじゃないか？」って不安に思った経験があるのですが、そうならないためには中途半端な感情で動かないことが大切だと感じます。また、自分を卑下しろとまでは言わないけれど、いろんなことに感謝しながら働くほうがいい。そして、学生時代の勉強は自己完結できるものが多いけれど、ビジネスは必ず相手がいるから、時にはテクニカルスキルよりもヒューマンスキルのほうが大事になることもあります。社会人は初めてのことが多くなりますが頑張ってください！



**経験豊富なベテランお2人のインタビューは
いかがでしたか？次号もお楽しみに！！**